

セッション1 ショートプレゼンテーション

阿部新
山口大学
国際総合科学部

報告内容

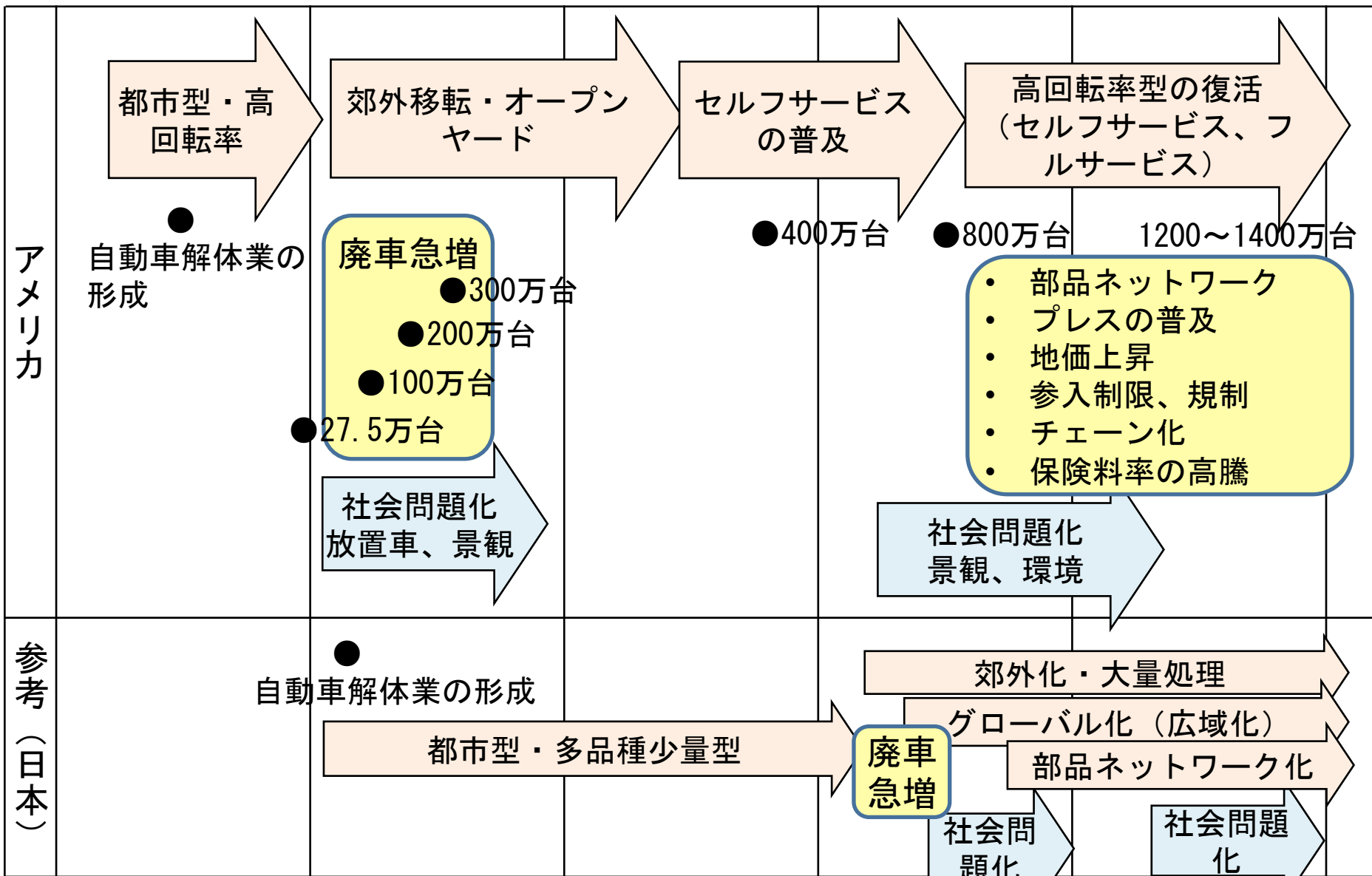
1. 世界の自動車リサイクル業界の最近の動向
2. 動脈産業と静脈産業の事業者の連携
3. 静脈産業の事業者間での連携の必要性

1. 世界の自動車リサイクル業界の最近の動向(?)

- 先進国・・・自動車保有、販売、廃車台数の減速化
 - 広域化と高付加価値化を模索する動きはどこも同じ(?)
 - 欧州・・・中・東欧の進出(2000年代)、中国への関心、樹脂回収等
 - アメリカ(LKQ等)・・・M&Aにより規模拡大? →現在は各工場の高付加価値を追求し、M&Aは部品製造など周辺事業に向かっている?
 - 日本・・・精緻な解体(ニブラ)、部品の統一基準の議論、海外進出(2010年前後)、樹脂回収等
- 新興国・途上国・・・自動車保有、販売台数の増加
 - 日本の1970年前後に近づいている・・・環境問題の顕在化 →解体業者などの廃車の受け皿(静脈産業)の育成が必要
 - 不公正な市場構造が健全な企業の参入、産業発展を阻害・・・市場の公正化を前提とした産業育成政策

参考：アメリカの自動車リサイクル産業の発展

1900 1920 1940 1960 1980 2000



2. 動脈産業と静脈産業の事業者の連携

- 動脈と静脈の連携は進んでいる(?)
 - 資源確保に関わる実証事業など
 - 新素材等の設計情報提供・・・かねてから指摘されている→メーカー間の競争により失うものとのバランス
 - 社会的責任や資源確保という目的があるのであれば、連携は動脈産業にとっても有益なはず→有益性の確認の必要
- 海外静脈市場における連携
 - 使用後の処理について法的責任がなくても、社会的責任が求められることがある→過去の日本でも同様にあった
 - 過去を繰り返さないために動脈側が早い段階で処理事業に関わることは大いにありうる
 - その際に海外展開している静脈産業との連携は想定される
- いずれにしろ、互いに有益性を確認、話し合う必要

3. 静脈産業の事業者間での連携の必要性

- 中古部品の需給ミスマッチの克服
 - 各社が仕入れる使用済自動車では部品供給に限界がある・・・融通し合う→ネットワーク
- 市場拡大のための評判形成
 - 部品の品質基準の統一などの共通ルールの策定
 - 中古部品の質への不安解消のための啓発活動、社会的必要性のアピール
- 共同事業による個別費用の削減
 - 共同回収システム、調査事業など
- 情報収集による経営改善
 - 国内外の政策・市場動向、経営方法・技術などの勉強会
- 関係組織との交流による市場拡大
 - 行政、メーカー、販売、整備などとの意見交換